

救急車の適正利用を考えよう



救急車 必要なのは
どんな時？

☎ 衣浦東部広域連合消防課 (☎63-0135)

救急車は限りある資源です。尊い命を救うために、救急車の適正利用をお願いします。

こんなとき本当に救急車を呼ぶべき？



こんな時は すぐに119番！

意識がない（返事がない）

呼吸がない、呼吸が弱い

けいれんが止まらない

突然の顔や手足のしびれ

突然の激しい頭痛や腹痛

嘔吐や下血がある

冷や汗を伴う強い吐き気

締め付けられるような胸の痛み

突然上手に話せなくなる

広範囲のやけど、大量の出血



その他、いつもと違う場合、
様子がおかしい場合

救急医療の受診

症状に緊急性がなくても、「交通手段がない」「どこの病院に行けばよいか分からない」「便利だから」「困っているから」と救急車を呼ぶ人がいます。また、「平日休めない」「日中は用事がある」「明日は仕事」などの理由で、救急外来を夜間や休日に受診する人もいます。

いざというときの皆さん自身の安心安全のために、救急医療の受診について考えてみませんか。

こうしたケースで救急車が呼ばれました～本当に必要か考えてみましょう～

- 蚊に刺されてかゆい
- 海水浴に行って、日焼けした足がヒリヒリする
- 紙で指先を切った。血は止まっているが…
- 病院で長く待つのが面倒
- 病院でもらった薬がなくなった
- 今日入院予定日だから、病院に行きたい
- ヘルパーを呼んだが来てくれなかったため、代わりに救急車を呼んだ

判断に迷ったときは…

- 救急医療情報センター（24時間対応） ☎36-1133

症状に合った最寄りの適切な医療機関を紹介します。

- 小児救急電話相談（毎日19時～翌朝8時まで） ☎052-962-9900、#8000

小児科医師・看護師が子どもの症状に応じた適切な対処の仕方や受診できる病院などをアドバイスします。

- 総務省消防庁「Q助」案内サイト

緊急度判断を支援し、医療機関や受診手段の情報を提供するアプリです。アプリをダウンロードして、いざという時のために備えましょう。



▲GooglePlay

▲AppStore